

お客様導入事例

東急Re・デザイン

いつもの紙帳票を
そのまま電子化

*Digitalize
document
workflow*



WACOM® for Business

株式会社東急Re・デザイン *At a Glance*

お客様情報

- 株式会社東急Re・デザイン
<https://www.tokyu-re-design.co.jp/>

株式会社東急Re・デザインは、総合不動産管理会社の東急コミュニティーと建築請負会社の東急ホームズが行ってきたリフォーム事業を統合し2017年に設立されました。住宅のリフォーム事業・新築事業に加え、オフィスやホテル、商業施設、医療・介護施設、スポーツ施設の設計、施工も事業の柱に据えビジネスを展開しています。近年では最先端のICTツールの導入や業務のデジタル化も推進し、生産性向上と競争力強化にも積極的に取り組んでいます。

パートナー様情報

- 株式会社ALCONTA(アルコンタ)
<https://www.alconta.co.jp>

株式会社ALCONTAは慣れ親しんだ紙のワークフローは残したまま、手書き情報を電子化及びデータ化できる「onboard」というBamboo Slate対応アプリケーションを提供しているメーカーです。今回、Bamboo Slateとともに東急Re・デザインに採用されています。

ワークフロー

- 住宅リフォームにおける、紙にペンで書いた打ち合わせ記録の電子化

これまでの課題

- 紙の打ち合わせ記録の保管に要する時間と作業負担を削減したい
- 紙運用について回る紛失リスクをなくしたい
- 打ち合わせ記録の電子化を徹底し、データ共有を迅速化したい(情報共有を推進したい)

取り組み

- クリップボード型ペンタブレット「Bamboo Slate」とALCONTAの「onboard」を組み合わせたペーパーハイブリッドソリューションを導入、打ち合わせ記録の電子化及び業務改善

導入効果

- 従来の紙に手書きの業務フローを変更することなく、打ち合わせ記録の電子化を実現
- 打ち合わせ記録の電子化から保管まで自動化し、営業担当者の作業負担を軽減
- 紙の打ち合わせ記録の徹底した電子化でガバナンスを強化

WACOM® for Business



株式会社東急Re・デザイン
経営企画部
イノベーション推進チーム
マネージャー

連沼 一貴氏



株式会社東急Re・デザイン
経営企画部
イノベーション推進チーム

黒木 奈津子氏

今回、ワコムのBamboo Slateとonboardを導入したことで、手書きの打ち合わせ記録を電子化する作業のほとんどが自動化され、営業担当者の大幅な業務効率化と働き方改革を実現できました

打ち合わせ記録の徹底的な保管と、業務工数削減方法の検討を進める中、ワコムのBamboo Slateに出会いました

More human *More digital*



株式会社ALCONTA

代表取締役 根津 直文氏(写真右)

専務取締役 新栄 大助氏(写真左)



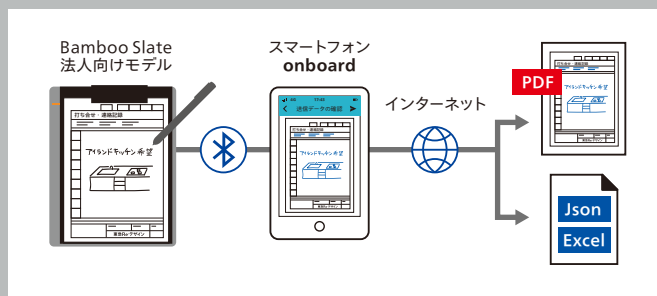
営業担当者の負担となっていた打ち合わせ記録の電子化がスムーズに

1. 効率化が求められていた、打ち合わせ記録の電子化

東急Re・デザインは、ITを活用した業務の生産性向上に積極的に取り組んでいます。その一例が、顧客との打ち合わせ記録の電子化です。同社では、営業担当者は顧客とのリフォームに関する打ち合わせ内容を3枚複写の定型用紙に手書きし、1枚はサインをもらってお客様へ、もう1枚は施工業者に渡していました。残りの1枚は自社の保存用に、営業担当者が出社の都度時に複合機でPDF化、ファイル名を付けて指定のフォルダにアップしていました。しかし、「PDF化しアップまでには1枚あたり5～10分程度の時間を要するなど、営業担当者の負担となっていましたし、そのために帰社することを非効率に感じていました。結果担当者がPDF化せず紙のまま手元で保管していることもあり、情報共有が困難だったほか、法律上、契約にかかわる打ち合わせ事項は10年の保管期間が設けられているものの、紛失してしまうリスクがあったなど、管理面でも課題が生じていました」と、同社経営企画部イノベーション推進チーム マネージャーの蓮沼一貴氏は説明します。

2. クリップボード型ペンタブレットを採用し、業務フローを変えずにスムーズに電子化

これらの課題を解決するために同社が選択したのは、ワコムのクリップボード型ペンタブレット「Bamboo Slate」とALCONTAの「onboard」を組み合わせたペーパーハイブリッドソリューションでした。これは、普通紙に印刷された帳票に専用のペンで記入することで、手書きの文書や図等をデジタルデータに変換し保存可能とするものです。打ち合わせ時の日付と工事名を指定箇所に手書きすれば自動的にファイル名にリネームされたのち、スマートフォンを通じてBOXにデータを送信、さらに所属組織ごとにデータが格納される仕組みが実現されています。経営企画部イノベーション推進チームの黒木奈津子氏は、「これであれば、既存の帳票や業務フローを変えることなく、打ち合わせ記録のPDF化や保管の手間が軽減できると考えました」と話します。



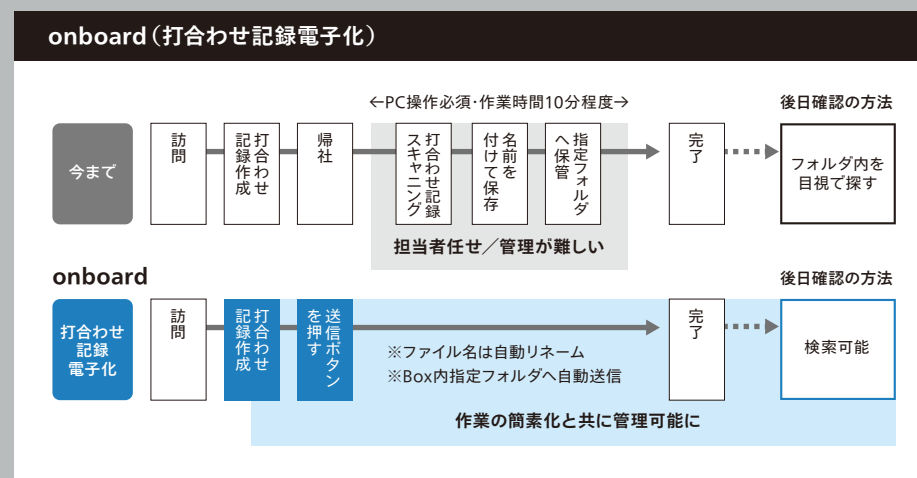
WACOM® for Business

3. 作業工数を大幅に削減、ガバナンスの強化も推進

onboardとBamboo Slateを活用した電子化システムは2020年6月から稼働が開始しており、現時点では住宅系の業務に関わる担当者に60台のBamboo Slate が配布・活用されています。打合せの後には2回ボタンを押すだけで手書きの記録がBOX内の指定フォルダに送信、保管されるので、現場の営業担当者からは好評を得ています。

東急Re・デザインでは定量的な効果として、これまで5分～10分かかっていたPDF化から保管までの作業が不要となり、業務効率が改善されたと強調します。

現在は担当者の一部でBamboo Slateが利用されていますが、今後は他の担当者にも配布していくほか、商業施設等の営業担当者にも展開していく考えて、2020年度中には200台程度にまで導入が拡大されると見込んでいます。



4. 打ち合わせ記録以外の帳票にも利用拡大

現在は打ち合わせ記録の1帳票だけですが、次のステップでは竣工の立会検査など、対象の帳票を6帳票まで拡大の予定です。会社としては最終40～50帳票までデジタルデータ化を目指しています。蓮沼氏は、「将来的には、デジタルデータ化された打ち合わせ記録を分析ツールなどにも利用を拡げていけるのではと期待しています」と話します。

ALCONTA は「ワコムにはBamboo SlateにSIM機能を搭載させるなど活用の幅を拡げて頂き、共に企業のデジタル化に貢献していきたいと考えています」と語ります。

More human



More digital

本事例やワコムのソリューションに関しましては、以下まで問い合わせください：

03-5337-6704 /// forbusiness@wacom.co.jp

ワコムビジネスソリューションチームは、数十年にわたって業界をリードしてきたデジタルペンテクノロジーに基づき、対面でのやり取りが必要なワークフローのデジタル化をサポートいたします。正確なデジタルインクを保存および表示する当社のソフトウェアを使用すると、ワコムのハードウェアの機能を最大限に利用することができます。当社のパートナーネットワークを活用すれば、ワークフローに手書きの電子サインや注釈をシームレスに統合することが可能です。これにより、使い慣れたペンと紙の感覚を残したまま業務のデジタル化とペーパーレス化を実現することができます。

さらに、WILL™3.0（Wacom Ink Layer Language）規格を使用すると、あらゆる用途にデジタルインクで対応するための新しいアプリケーションを強力にサポートすることができます。これにより、よりデジタルかつ人間に寄り添った体験を次世代のお客様に提供できるようになります。

WACOM® for Business



<https://www.wacom.com/ja-jp/for-business>

© 2020 株式会社ワコム

お問い合わせ：

株式会社ワコム 〒160-6131 東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー31階
forbusiness@wacom.co.jp・03-5337-6704（受付時間 9:00～18:00 土・日・祝日を除く）